

# 松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【令和6年1月】

■調査概要（データ対象期間：令和6年1月1日～1月31日）

○調査期間：令和6年1月30日～令和6年2月21日

○調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送等によるアンケート調査

○回収状況：建設業17企業、製造業17企業、卸売業13企業、小売業18企業

飲食業13企業、サービス業32企業（運輸、不動産仲介業を含む）

<合計110企業>

○調査項目：1月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価

状況向こう3ヵ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI(Diffusion Index)値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準と

して、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下

向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示す

ものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

# 概況

## 業況DI、水準DI共にマイナス幅が拡大した

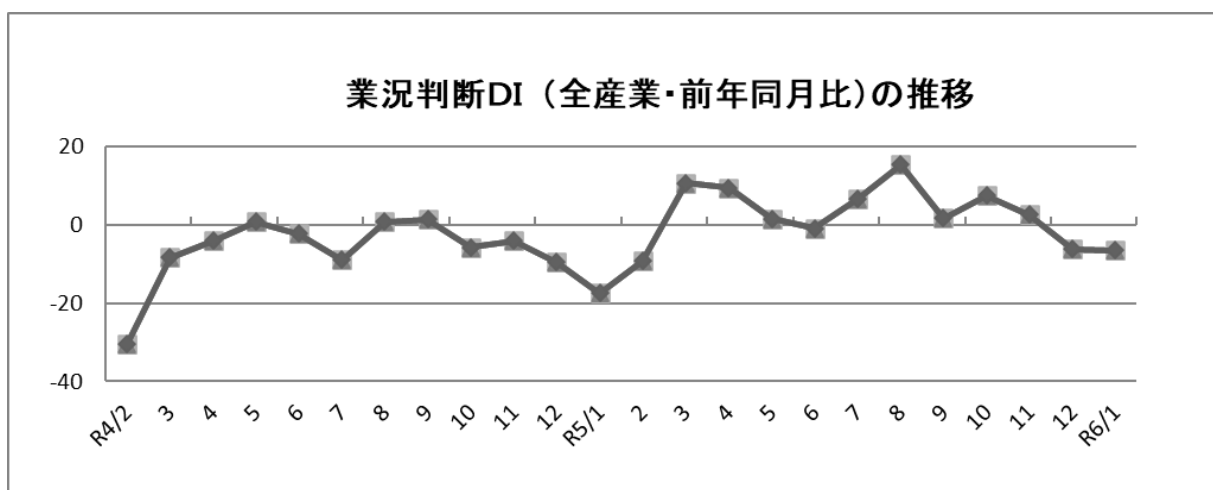
### 1. 業況判断

- 全産業合計の業況DI(前年同月比ベース)は、前月(▲6.1)より0.3ポイント下降し、▲6.4となった。業種別では、飲食業はプラス幅が拡大し、小売業はプラスから0となった。建設業は0からマイナスに転じ、製造業・サービス業はマイナスが縮小した。卸売業はマイナス幅が拡大した。
- 全産業合計の水準DIは、前月(▲8.7)より7.7ポイント下降し、▲16.4になった。業種別では、建設業・小売業は0のまま横ばい、卸売業・飲食業は0からマイナスに転じた。サービス業・製造業はマイナス幅が拡大した。

業況判断DI

	業況[前年同月比]				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	14.5 (14.8)	64.6 (64.3)	20.9 (20.9)	▲ 6.4 (▲ 6.1)	12.7 (13.9)	58.2 (63.5)	29.1 (22.6)	▲ 16.4 (▲ 8.7)
建設業	0.0 (10.5)	88.2 (79.0)	11.8 (10.5)	▲ 11.8 (0.0)	11.8 (5.3)	76.4 (89.4)	11.8 (5.3)	0.0 (0.0)
製造業	11.8 (5.9)	64.7 (64.7)	23.5 (29.4)	▲ 11.7 (▲ 23.5)	11.8 (17.6)	47.0 (47.1)	41.2 (35.3)	▲ 29.4 (▲ 17.7)
卸売業	15.4 (21.4)	53.8 (50.0)	30.8 (28.6)	▲ 15.4 (▲ 7.2)	7.7 (21.4)	61.5 (57.2)	30.8 (21.4)	▲ 23.1 (0.0)
小売業	22.2 (15.8)	55.6 (73.7)	22.2 (10.5)	0.0 (5.3)	27.8 (15.8)	44.4 (68.4)	27.8 (15.8)	0.0 (0.0)
飲食業	38.5 (38.5)	38.4 (30.7)	23.1 (30.8)	15.4 (7.7)	15.4 (38.5)	46.1 (23.0)	38.5 (38.5)	▲ 23.1 (0.0)
サービス業	9.4 (9.1)	71.8 (69.7)	18.8 (21.2)	▲ 9.4 (▲ 12.1)	6.3 (3.0)	65.6 (72.8)	28.1 (24.2)	▲ 21.8 (▲ 21.2)

※「業況[前年同月比]」…前年同月の業況との比較による回答の集計  
「今月の水準」…事業主の方の主観による回答の集計

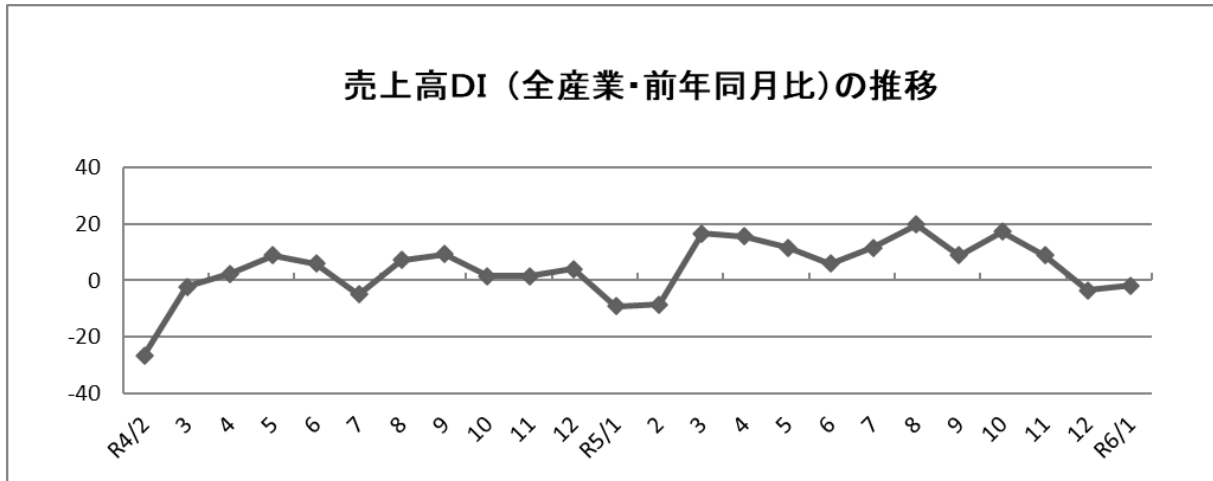


## 2. 売上高DI（前年同月比）

○全産業合計の売上高DIは、前月（▲3.5）より1.7ポイント上昇して、▲1.8となった。業種別に見ると、小売業はプラスから0に転じ、卸売業はプラスからマイナスへ転じた。飲食業は0からプラスに転じ、製造業はマイナスからプラスに転じた。サービス業はマイナス幅が縮小し、建設業はマイナス幅が拡大した。

【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

	R5年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6年1月
全 体	▲ 9.2	▲ 8.4	16.6	15.5	11.7	6.0	11.6	19.7	8.8	17.3	9.0	▲ 3.5	▲ 1.8
建 設 業	▲ 15.8	▲ 27.7	▲ 10.6	▲ 29.4	▲ 31.5	0.0	▲ 23.5	▲ 27.7	▲ 17.6	▲ 5.9	0.0	▲ 5.3	▲ 11.7
製 造 業	▲ 5.5	▲ 11.7	5.0	30.0	5.5	26.3	15.7	5.5	6.7	11.1	5.9	▲ 23.5	11.8
卸 売 業	22.2	0.0	33.3	▲ 12.5	0.0	12.5	8.3	9.1	▲ 8.3	▲ 9.1	0.0	21.5	▲ 15.4
小 売 業	▲ 39.2	▲ 13.6	39.2	4.8	30.4	▲ 4.5	8.3	40.0	▲ 15.0	14.3	▲ 16.7	10.6	0.0
飲 食 業	23.1	▲ 23.1	33.4	25.0	53.8	16.7	53.8	64.3	64.3	64.3	50.0	0.0	7.7
サービス業	▲ 7.9	8.3	15.0	36.9	13.5	0.0	13.9	25.0	19.4	22.5	20.0	▲ 12.1	▲ 3.1

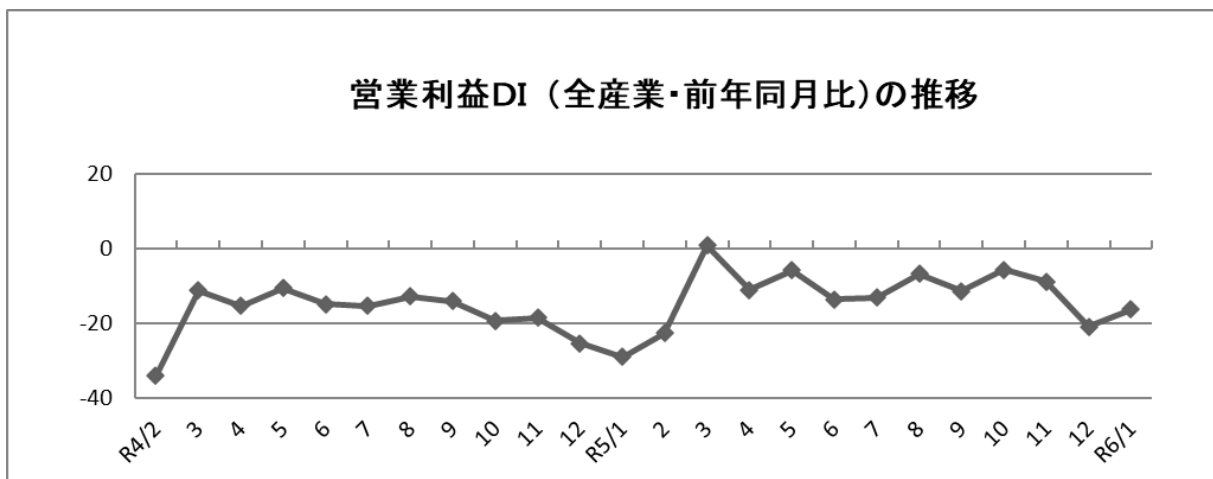


## 3. 営業利益DI（前年同月比）

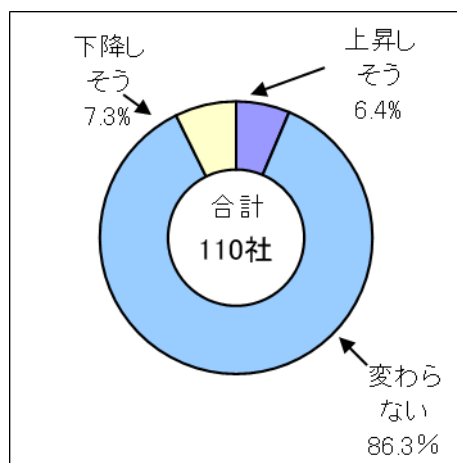
○全産業合計の営業利益DIは、前月（▲20.9）より4.5ポイント上昇して、▲16.4となった。飲食業・製造業はマイナス幅が縮小し、サービス業・小売業・建設業・卸売業はマイナス幅が拡大した。

【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

	R5年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6年1月
全 体	▲ 29.1	▲ 22.7	0.8	▲ 11.2	▲ 5.9	▲ 13.6	▲ 13.2	▲ 6.8	▲ 11.4	▲ 5.8	▲ 8.9	▲ 20.9	▲ 16.4
建 設 業	▲ 21.1	▲ 33.3	▲ 15.8	▲ 35.3	▲ 36.8	▲ 20.0	▲ 29.4	▲ 38.8	▲ 29.4	▲ 17.6	▲ 5.0	▲ 15.8	▲ 23.5
製 造 業	▲ 50.0	▲ 35.3	▲ 10.0	▲ 10.0	▲ 16.7	▲ 15.8	▲ 26.3	▲ 33.4	▲ 13.3	▲ 27.7	▲ 29.5	▲ 35.3	▲ 5.9
卸 売 業	▲ 11.1	▲ 23.1	11.1	▲ 25.0	▲ 40.0	0.0	0.0	▲ 18.2	▲ 16.7	▲ 27.2	▲ 25.0	▲ 7.1	▲ 23.1
小 売 業	▲ 52.2	▲ 13.7	17.4	▲ 23.8	26.1	▲ 18.2	▲ 12.5	5.0	▲ 30.0	▲ 14.3	▲ 22.2	▲ 15.8	▲ 22.2
飲 食 業	▲ 30.8	▲ 38.4	▲ 22.2	▲ 16.7	0.0	▲ 16.6	▲ 7.7	28.6	0.0	14.3	▲ 10.0	▲ 53.8	▲ 15.4
サービス業	▲ 13.2	▲ 11.1	7.5	10.5	2.7	▲ 8.1	▲ 5.6	5.5	5.5	12.5	11.4	▲ 12.1	▲ 12.5



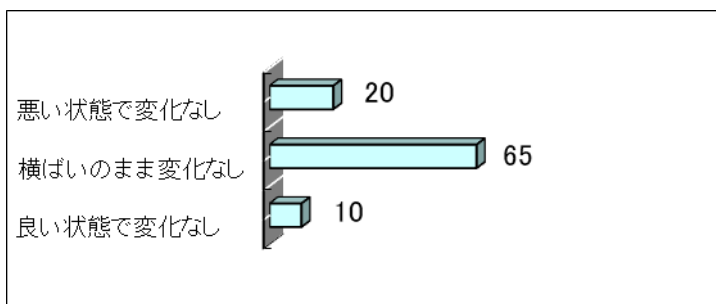
◇ 向こう3カ月の見通し ◇



○令和6年2月～令和6年4月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ4.7ポイント増え6.4%、「下降しそう」が5.7ポイント減り7.3%となった。業種別の見通しDIは建設業(▲5.9)、製造業(23.5)、卸売業(▲23.1)、小売業(0.0)、飲食業(▲7.7)、サービス業(▲6.3)であった。

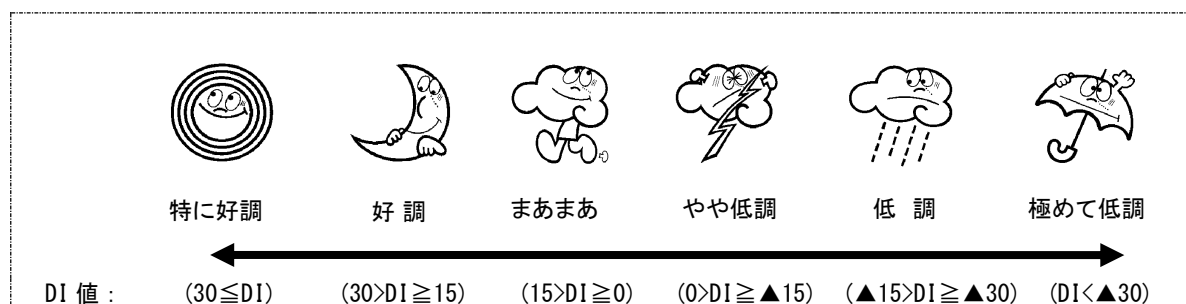
➡「上昇しそう」では「年度末の動きに期待しているため」「繁忙期のため」「価格改定する部分もあり改善見込みがあるため」「値上げと値上げ前の駆け込み受注が増えるため」「当月が悪すぎたため」(製造業)

➡「下降しそう」では「地震後の購入意欲低下や買い控えのため」「輸送費のコスト上昇が予定されているため」「客先の動向からも良くなる情報が見当たらないため」(卸売業)「職業訓練募集者数及び受講者数が減少しているため」(サービス業)といった声が寄せられた。

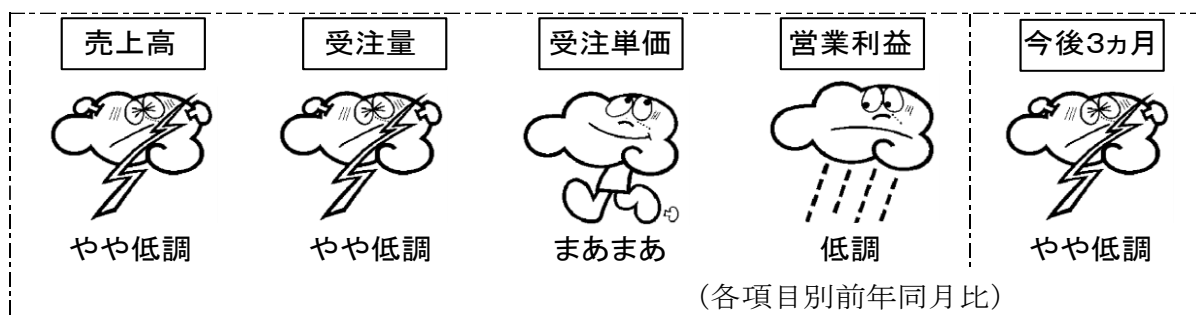


# 業種別景況

## <DI | 君の景況判断>



## 1. 建設業



【項目別DIの推移】

	R5年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6年1月
売上高	▲ 15.8	▲ 27.7	▲ 10.6	▲ 29.4	▲ 31.5	0.0	▲ 23.5	▲ 27.7	▲ 17.6	▲ 5.9	0.0	▲ 5.3	▲ 11.7
受注量	▲ 21.0	▲ 27.8	▲ 21.0	▲ 23.5	▲ 21.1	▲ 15.0	▲ 35.3	▲ 16.7	▲ 11.7	▲ 5.8	▲ 5.0	▲ 5.2	▲ 11.7
受注単価	▲ 5.3	▲ 16.7	▲ 5.2	0.0	▲ 10.5	0.0	▲ 5.9	5.6	5.9	5.9	5.0	5.3	5.9
営業利益	▲ 21.1	▲ 33.3	▲ 15.8	▲ 35.3	▲ 36.8	▲ 20.0	▲ 29.4	▲ 38.8	▲ 29.4	▲ 17.6	▲ 5.0	▲ 15.8	▲ 23.5
見通し	▲ 5.2	▲ 5.5	0.0	5.9	5.3	5.0	5.9	5.5	5.9	0.0	0.0	▲ 10.5	▲ 5.9

## <経営者の目・見方・etc>

土木工事

・フレックス工期や繰越工事で工期設定が延びているので年度末の追い込みは少なくなった。

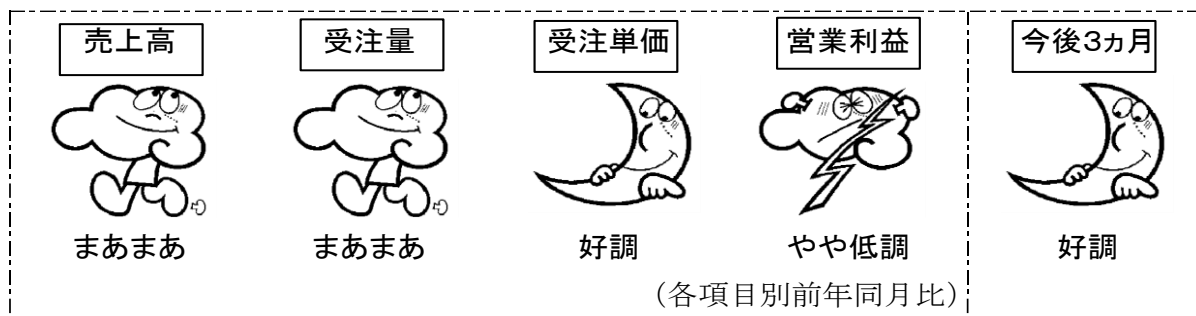
電気工事

・公共工事の発注が少ないと感じる。  
・昨年に引き続きケーブル不足であり、またこの4月より資材値上がり等を危惧している。

鉄工

・市況については先月同様である。

## 2. 製造業



【項目別DIの推移】

	R5年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6年1月
売上高	▲5.5	▲11.7	5.0	30.0	5.5	26.3	15.7	5.5	6.7	11.1	5.9	▲23.5	11.8
受注量	▲27.8	▲11.7	▲5.0	5.0	5.6	5.3	▲5.3	5.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
受注単価	16.6	23.5	10.0	25.0	16.6	21.0	26.3	16.7	▲6.7	16.7	0.0	0.0	23.5
営業利益	▲50.0	▲35.3	▲10.0	▲10.0	▲16.7	▲15.8	▲26.3	▲33.4	▲13.3	▲27.7	▲29.5	▲35.3	▲5.9
見通し	22.2	0.0	▲25.0	▲15.0	5.5	▲15.8	▲5.2	16.6	0.0	16.6	▲5.8	▲17.6	23.5

### <経営者の目・見方・e t c>

印刷

- ・長野県中小企業団体中央会の労働実態調査アンケートに業界別経営状況の指標が毎年掲載されるが、その中の指標数値が比較的良好な業界の企業から「うちも厳しい」と言われて価格転嫁に応じてもらえないケースが出始めている。大規模集約型のネット印刷などへの切替えも検討している企業も出てきている。

精密機器組立

- ・年度末に向けて増産傾向ではあるが、他社の話を聞くと、受注が落ち込んでいる声が聞こえてくる。業界の動きは良くない。

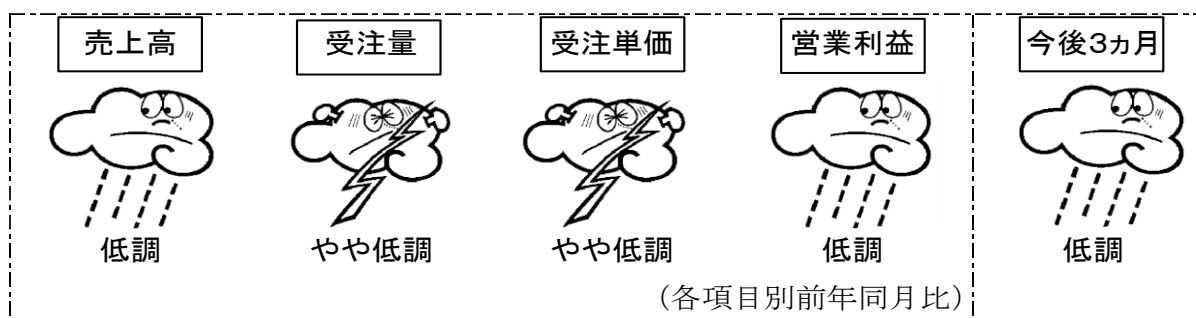
小型情報機器組立

- ・在庫調整のために受注が減り人のやりくりが大変である。

金属塗装

- ・毎年のことで、1月は稼働日が少なく落ちる月ではあるが、今年は特に落ち込んだ。中国の低調がかなり影響している。

## 3. 卸売業



【項目別DIの推移】

	R5年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6年1月
売上高	22.2	0.0	33.3	▲12.5	0.0	12.5	8.3	9.1	▲8.3	▲9.1	0.0	21.5	▲15.4
販売客数	0.0	▲7.7	11.1	▲25.0	▲10.0	12.5	▲8.4	▲18.2	▲25.0	▲27.3	▲16.7	▲7.1	▲7.7
販売客単価	22.2	0.0	33.3	0.0	10.0	12.5	25.0	27.3	8.3	18.2	0.0	14.3	▲7.7
営業利益	▲11.1	▲23.1	11.1	▲25.0	▲40.0	0.0	0.0	▲18.2	▲16.7	▲27.2	▲25.0	▲7.1	▲23.1
見通し	0.0	▲7.7	0.0	12.5	▲10.0	0.0	0.0	▲9.1	▲33.3	▲18.2	0.0	▲7.2	▲23.1

### <経営者の目・見方・e t c>

青果	・2024年問題、物流に関わる企業として色々な仕組改善が必要になってくる。効率的な積み込み、残業時間の制限、ドライバー不足等、新たな輸送方法を検討していきたい。
魚介類	・ハローワークに求人を出しても応募がない。平均年齢は上がっており、若い人をどうすれば雇えるか不安である。
自転車	・雪が少なく自転車の利用が多く見られた。自転車部品は今後値上げの予定となっている。輸送コストの値上げがあり負担が大きくなっている。能登半島地震でわずかではあるが、仕入先より商品が入らなかった。
土産品	・年始から商品の売れ行きが好調である。新製品等の投入を急ぎ進めていきたい。
機械部品	・運送形態やサプライチェーンの見直しがある。
金属製品	・建築案件は大型案件ばかりで中小案件が薄く、不透明感が漂う。産機、建機関連も依然低調である。2024年問題等での経費アップから、高炉メーカーをはじめとして値上げ要請もあり、今後流通やサプライヤーが価格転嫁できるかが課題である。
菓材料卸売	・輸入原材料の値上げが4月以降も止まらず、今後の動きが心配である。
木材・建材	・あらゆるコストを価格転嫁できているのは大企業のみであり、中小企業は負担を強いられている。今後懸念される輸送費の転嫁についても交渉の難航が予想される。
木材・建材	・能登半島地震による物流の停滞。

## 4. 小売業



【項目別DIの推移】

	R5年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6年1月
売上高	▲ 39.2	▲ 13.6	39.2	4.8	30.4	▲ 4.5	8.3	40.0	▲ 15.0	14.3	▲ 16.7	10.6	0.0
販売客数	▲ 39.1	0.0	4.4	▲ 9.5	17.4	▲ 9.1	4.1	20.0	▲ 20.0	9.6	▲ 5.6	0.0	5.5
販売客単価	▲ 26.1	13.6	0.0	▲ 19.1	26.1	9.1	25.0	15.0	▲ 10.0	▲ 14.3	▲ 5.6	0.0	▲ 5.6
営業利益	▲ 52.2	▲ 13.7	17.4	▲ 23.8	26.1	▲ 18.2	▲ 12.5	5.0	▲ 30.0	▲ 14.3	▲ 22.2	▲ 15.8	▲ 22.2
見通し	▲ 8.7	0.0	17.4	▲ 4.8	0.0	13.7	8.3	0.0	0.0	▲ 19.0	▲ 5.6	▲ 21.1	0.0

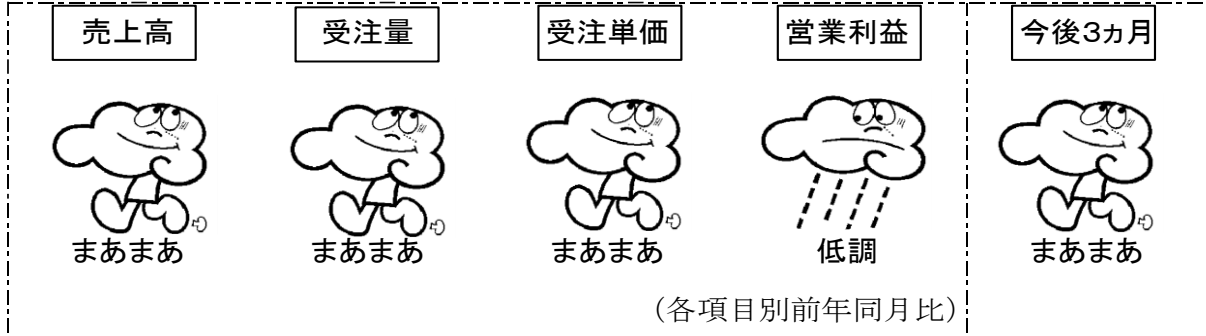
### <経営者の目・見方・e t c >

洋菓子店	・コロナ禍が明け期待していたがなんとか横ばいである。卸売も横ばいである。観光地の卸売はダウンした。
印章	・正月明けは人の動きが鈍かったように感じる。 ・元日の能登地震の影響が出て観光客の足が遠のくかと思ったが、松本城のプロジェクトンマッピングや氷彫フェスティバルには多くの観光客

生鮮食品

が訪れていた。コロナ禍による個人の注文の減少は下げ止まりになった感じはあるが、法人需要はかなり厳しくなっている。  
 ・今年の上旬は大雪はなく人出もあり売上に繋がった。ただ、元旦から大地震で大変なこととなった。テレビに映し出される惨状には言葉も出ない。

## 5. 飲食業



【項目別DIの推移】

	R5年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6年1月
売上高	23.1	▲ 23.1	33.4	25.0	53.8	16.7	53.8	64.3	64.3	64.3	50.0	0.0	7.7
販売客数	23.1	▲ 23.1	55.6	25.0	38.4	25.0	23.1	57.2	57.2	50.0	20.0	15.4	7.7
販売客単価	7.7	▲ 15.4	0.0	0.0	▲ 7.7	▲ 16.7	23.1	28.6	7.1	28.6	10.0	7.7	0.0
営業利益	▲ 30.8	▲ 38.4	▲ 22.2	▲ 16.7	0.0	▲ 16.6	▲ 7.7	28.6	0.0	14.3	▲ 10.0	▲ 53.8	▲ 15.4
見通し	0.0	30.8	33.3	25.0	23.1	25.0	0.0	7.2	7.2	14.3	0.0	▲ 7.7	7.7

### <経営者の目・見方・e t c>

寿司

- ・外食需要全体は戻ったが、特に30名以上の団体需要は未だに弱く、終電後の客足は弱い、などコロナ禍を経て顧客需要の変化を特に感じる月であった。
- ・元旦早々能登半島で大変な地震が起きた。能登の漁師が避難所から漁に出ている様子をテレビで見た。大変な苦勞をされていると察する。魚が高い安い以前の問題で能登から入った魚はできる限り買い、売上に協力したい思いだ。

食堂

- ・1月前半は天気も良く家族連れが多く良かったが、後半は平日も静かだった。
- ・正月のイオンモールは大盛況であった。

料理

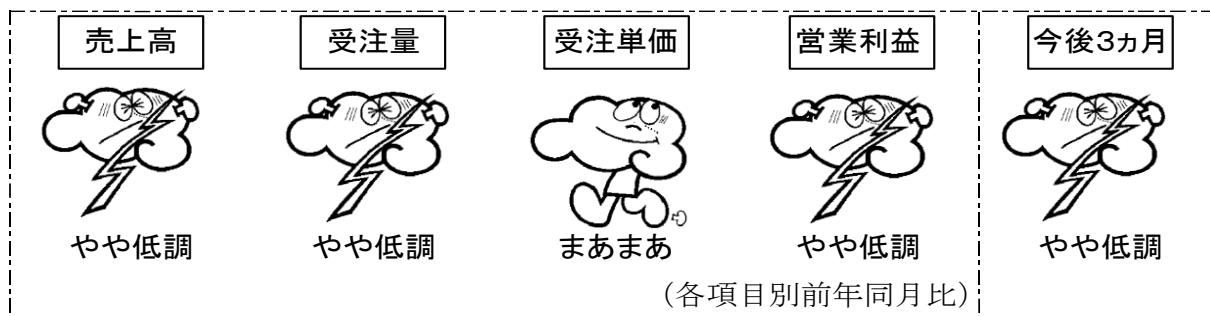
- ・寒さで人の動きがなく、宴会も少人数で開くようになり多勢の宴会も減ってきた。
- ・観光客、地元客、新年会ともに減った。

中華料理

- ・あめ市や氷彫フェスティバルなどのイベントのおかげで街が盛り上がった。若手従業員の士気も高く、店の雰囲気も良くなりつつある。松本市博物館利用者が週末は特に多く、街に賑わいが出ている。



## 6. サービス業



【項目別DIの推移】

	R5年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6年1月
売上高	▲7.9	8.3	15.0	36.9	13.5	0.0	13.9	25.0	19.4	22.5	20.0	▲12.1	▲3.1
販売客数	▲7.9	8.3	2.5	28.9	8.1	0.0	11.1	8.3	11.1	12.5	8.6	▲18.1	▲3.2
販売客単価	13.2	11.1	10.0	23.7	10.8	5.4	11.1	19.4	19.4	27.5	11.4	▲3.1	0.0
営業利益	▲13.2	▲11.1	7.5	10.5	2.7	▲8.1	▲5.6	5.5	5.5	12.5	11.4	▲12.1	▲12.5
見通し	▲5.3	8.3	2.5	15.8	10.8	24.3	13.8	13.9	8.3	2.5	0.0	▲6.1	▲6.3

### <経営者の目・見方・etc>

温泉旅館

- ・オフシーズンなので、オンシーズンのように忙しくない。この時期にできる館内の補修工事や人材教育に力を入れて春からのオンシーズンに向けて準備している。

旅館

- ・寒さと共に動きも悪い。イベントがあると人出が多い。冬期も考えてほしい。
- ・元旦の地震、2日の事故と相次ぎ、観光気分にも水を差したか。当地は県境に位置し、北陸に近いため外出控えがあるのだろうか。

宿泊

- ・シーズン初めに比べスキー場の状況が安定してきたように見える。インバウンドのお客様は日本のお客様が動かない時もお越しいただいているようだ。

ホテル

- ・宿泊はコロナ禍前と比べても客数、単価ともに上がった。会議、宴会は数は変わらないが、人数が減っているので、客単価は上がっているのに売上は変わらない。

ホームクリーニング・  
リネンサプライ業

- ・国宝松本城に関するイベント(天守プロジェクションマッピング、氷掘フェスティバル)が盛況で観光客が多かった。

タクシー

- ・先月より大きな仕事が減り、客単価も低くてあまり良くなかった。

ペットサービス

- ・1月は来店数、売上高ともに前年並みだった。今後はお客様のニーズを叶えるため、商品やメニューに対する付加価値を追及していこうと思っている。

機械設計

- ・今年の動きと変わらずである。今期、来期の初旬までは横ばいである。

